

耐寒性強く、多収のやや早生品種。

# さやまかおり



多収性で、耐寒性強く、製品は形状が細よれしやすく、香気に特徴のある品質秀逸なやや早生の品種です。消費者嗜好の多様化にともない、新たな消費者の開拓に向きます。

## 品種の来歴と特徴

埼玉県茶業試験場(現埼玉県農林総合研究センター)が「やぶきた」自然交雑実生から選抜育成し、昭和46年に茶農林31号として登録された品種で昭和60年に県奨励品種に採用されました。摘採期は「やぶきた」より2日程早いやや早生種で、樹姿は中間型、樹勢強く、成葉はやや光沢の少ない濃緑色で、葉縁の波が大きく着用角度が小さいです。摘採期の新芽は百芽重が大きく、芽数も多いため収量は多収です。耐寒性は赤枯れ、青枯れ及び裂傷型凍害に強く、凍霜害後の回復力にも優れています。耐病性は輪斑病と赤焼病には強いが炭そ病には極めて弱いです。

## 品質の特性

色沢はやや黒みを帯びやすく、滋味は苦渋味が出やすいが、特徴的な強い香りを持っています。

## 栽培上の注意点

栽培面の問題は少ないが炭そ病に弱いので防除に注ぐ必要があります。

## 加工上の注意点

色沢が黒みを帯び、苦渋味が出やすく、ややくどい製品になりやすいので、蒸熱と揉み込みを十分に行うようにします。

## 普及および栽培適地

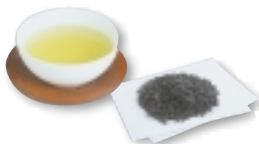
県下全域に栽培可能ですが、耐寒性が強く多収のやや早生種として、特に中山間地や県東部に適します。

## 苗木の入手方法

種苗法登録品種ではないので、苗の増殖、販売等は自由です。経済連が苗を扱っており農協に申し込みは購入できます。

## 命名の由来

埼玉県狭山市で育成され香りの強い品種であることから命名されました。



品種名	育成年	種苗登録の有無	育成場所	育成場所
さやまかおり	1971	無	埼玉茶試	やぶきた 自然交雑実生

早晩性	樹姿	樹勢	収量性	品質			耐寒性 (赤枯れ)	耐病性 (炭そ病)
				色沢	香気	滋味		
やや早生	中間	強	多	中	上	中	強	極弱